

第3部 総括

第1章 評価結果

1 指標の評価結果

第2部で記載した基本目標ごとの指標の評価結果は以下のとおりです。

なお、評価結果の「○」「△」「×」については、本書の最初のページ「一環境白書における評価の考え方」を参照してください。

表3-1 基本目標1「だれもが環境の保全と創造に関心を持ち、意欲的に取り組むまちをめざします」の評価結果

施策	指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
1-1 環境教育の推進	こどもエコクラブ登録団体数	15	○	×
	こどもエコクラブ登録会員数	15	○	×
	環境教育拠点施設数 ※1	18	△	○
	さいたま市環境フォーラム参加者数	21	○	△
	環境局ホームページアクセス件数	27	○	○
1-2 環境保全活動の促進	環境保全活動団体数	29	○	○
	さいたま市環境フォーラム参加者数【再掲】	29	○	△
1-3 ライフスタイル転換の促進	エコライフDAY 参加人数	36	○	○
1-4 都市環境を支える産業の育成	産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績 ※2	44	○	○
	環境マネジメントシステム認証取得事業所件数	46	△	△
1-5 国際協力の推進	JICA 研修生等受入数(水道局) ※3	51	○	○
	環境関連施設における海外視察受入数	51	×	○

表3-2 基本目標2「自然と共生し、歩いて楽しい緑豊かなまちをめざします」の評価結果

施策	指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
2-1 生物多様性・自然環境の保全	生物多様性の認識状況(言葉の認知度)	53	△	△
	市民参加型生きもの調査の仕組みの構築・稼働 ※4	-	-	-
	特定外来生物(アライグマ等)被害に関する相談への対応率 ※5	57	○	○
	市域における担保性のある緑の面積	59	○	△
2-2 快適環境の創造	身近な公園整備率	63	△	△
	自然緑地等の指定面積	65	△	△
	屋上・壁面等緑化を施した公共施設数	66	△	○
	憩える場所の整備延長(高沼用水路) ※6	72	○	×
2-3 景観の保全	優れた都市景観に関する啓発のための表彰 ※7	-	-	-
	景観重要建造物・景観重要樹木の指定	75	○	○
	耕地面積 ※8	-	-	-
2-4 自然とのふれあいの確保	学校教育ファームの実施校数 ※9	87	○	○
	市民農園の区画数 ※10	88	-	-
	オープン型緑地の指定面積	89	△	×

※ 市民農園の区画数については、基準年度のため評価していません。

表 3-3 基本目標 3「地球規模の環境問題に、地域から行動するまちをめざします」の評価結果

施策	指標	頁	対前年度比	対年度目標値比	
3-1	地球温暖化対策の推進	温室効果ガス1人あたり排出量	92	△	△
		温室効果ガス総排出量	92	△	△
		環境負荷低減計画提出者数 ※11	97	○	△
		(仮称)さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定状況 ※12	-	-	-
		次世代自動車登録台数 ※13	106	○	○
3-2	地球温暖化対策以外の地球環境保全の推進	カーエアコンのフロン類回収量(CFC)	117	-	○

表 3-4 基本目標 4「さわやかな空ときれいな水のある環境負荷の少ないまちをめざします」の評価結果

施策	指標	頁	対前年度比	対年度目標値比	
4-1	大気環境の保全	一般局における大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質)	119	○	○
		有害大気汚染物質に係る環境基準達成率(ベンゼン、ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)	119	○	○
		光化学オキシダントの原因物質の濃度(非メタン炭化水素(午前6時から9時)の年平均値)	119	○	○
		自排局における大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質)	122	○	○
		次世代自動車登録台数【再掲】 ※13	125	○	○
4-2	水循環の保全	水質汚濁に係る環境基準達成率(BOD75%水質値達成地点/測定地点)	128	○	○
		公共下水道普及率 ※14	129	○	○
		公共施設(小学校)への雨水貯留タンク設置数	132	○	○
		水道使用量(市民一人一日あたり)	133	○	○
4-3	土壌・地盤環境の保全	単年度沈下量 2cm 以上の面積	136	○	○
4-4	生活環境の保全	道路交通騒音に係る環境基準達成率	138	△	△
		騒音・振動・悪臭に関する公害苦情解決率	141	○	○
		新幹線鉄道騒音に係る環境基準達成率	142	○	○
4-5	化学物質対策の推進	ダイオキシン類一般大気環境基準達成率	145	○	○
		ダイオキシン類水質土壌環境基準達成率	145	○	○
		環境コミュニケーションの実施回数 ※15	147	○	○

表 3-5 基本目標 5「ごみを減量し、資源を有効活用するまちをめざします」の評価結果

施策	指標	頁	対前年度比	対年度目標値比	
5-1	一般廃棄物対策の推進	市民一人一日あたりのごみ総排出量 ※16	148	○	△
		一般廃棄物再生利用率 ※17	156	○	△
		一般廃棄物最終処分量 ※18	159	○	○
5-2	産業廃棄物対策の推進	産業廃棄物排出量	164	×	△
		産業廃棄物最終処分量	164	○	△

表 3-6 指標の見直し等

	施策	指標	頁	見直し前	見直し後	理由	対応年度	
※1	1-1	環境教育の推進	環境教育拠点施設数	18	目標値:20施設 (平成32年度)	目標値:20施設 (平成29年度)	「総合振興計画後期基本計画実施計画」との整合を図るため。	平成26年版～ (H25年度実績)
※2	1-4	都市環境を支える産業の育成	産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績	44	名称:産学連携による共同研究開発に対する支援実績	名称:産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績	指標の具体的な説明となるよう、指標名称を補足した。	平成25年版～ (H24年度実績)
※3	1-5	国際協力の推進	JICA研修生等受入数(水道局)	51	目標年度: 平成32年度	目標年度: 平成27年度	職員定数減により、積極的な受入体制の確立が困難であるため。	平成27年版～ (H26年度実績)
※4	2-1	生物多様性・自然環境の保全	市民参加型生きもの調査の仕組みの構築・稼働	-	指標:市民参加型生きもの調査の仕組みの構築・稼働	削除	目標の達成、目標年度の経過のため、指標を削除した。	平成27年版～ (H26年度実績)
※5	2-1	生物多様性・自然環境の保全	特定外来生物(アライグマ等)被害に関する相談への対応率	57	指標:特定外来生物の捕獲数 目標値:100頭 (平成24年度)	指標:特定外来生物(アライグマ等)被害に関する相談への対応率 目標値:100% (平成25年度)	「総合振興計画新実施計画(平成23年度改訂版)」との整合を図るため、アライグマをはじめとする特定外来生物に関する被害相談に対し、関係法令に基づく適切な対応を常時実施していくことに修正した。	平成25年版～ (H24年度実績)
※5	2-1	生物多様性・自然環境の保全	特定外来生物(アライグマ等)被害に関する相談への対応率	57	目標年度: 平成25年度	目標年度: 平成29年度	目標年度を経過したため、「総合振興計画後期基本計画実施計画」と整合を図り、目標年度を修正した。	平成27年版～ (H26年度実績)
※6	2-2	快適環境の創造	憩える場所の整備延長(高沼用水路)	72	目標値:2箇所 (平成24年度) 名称:憩える場所の整備数(高沼用水路)	目標値:2.6km (平成28年度) 名称:憩える場所の整備延長(高沼用水路)	「しあわせ倍増プラン2013」との整合を図るため	平成26年版～ (H25年度実績)
※7	2-3	景観の保全	優れた都市景観に関する啓発のための表彰	-	指標:優れた都市景観に関する啓発のための表彰	削除	景観表彰が平成22年度で事業休止となったため、指標から除外した。	平成24年版～ (H23年度実績)
※8	2-3	景観の保全	耕地面積	-	指標:耕地面積	削除	平成26年3月の農業振興ビジョン改訂に伴い、耕地面積の目標設定が削除されたため。	平成27年版～ (H26年度実績)
※9	2-4	自然とのふれあいの確保	学校教育ファーム	87	全小中学校(小学校103、中学校57) (平成25年度)	全小中学校(小学校103、中学校57) (平成29年度) ※学校教育ファームは、全市立小・中学校で継続実施	「総合振興計画後期基本計画実施計画」と整合を図るため。	H27年度版～ (H26年度実績)
※10	2-4	自然とのふれあいの確保	市民農園の区画数	88	指標:市民農園の開設数 目標値:80箇所 (平成25年度)	指標:市民農園の区画数 目標値:2,700区画 (平成32年度)	平成26年3月の「さいたま市農業振興ビジョン」改訂に伴い、指標(数値目標)を市民農園開設数から市民農園利用区画数に変更した。	平成27年版～ (H26年度実績)
※11	3-1	地球温暖化対策の推進	環境負荷低減計画提出者数	97	-	指標:環境負荷低減計画提出者数 目標値:1,400件 (平成32年度)	新規個別施策の追加に伴い指標を追加した。 本計画は、市内の一定規模以上の事業所について、温室効果ガス削減計画の作成と提出を義務付けるものである。また、提出義務の対象外となっている中小事業所にも計画の提出を呼びかけ、事業活動の省エネ化を促していくことから、計画の提出者数を指標とした。 目標値は、「さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」との整合を図り、1,400件(累計)とした。	平成25年版～ (H24年度実績)

	施策		指標	頁	見直し前	見直し後	理由	対応年度
※12	3-1	地球温暖化対策の推進	(仮称)さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定状況	-	(仮称)さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定状況	削除	平成25年3月に「さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定済みであるため、指標から除外した。	平成26年版～(H25年度実績)
※13	3-1	地球温暖化対策の推進	次世代自動車登録台数	106,125	目標値:12,000台(平成24年度)	目標値:87,000台(平成32年度)	目標年度経過により新たな目標値を設定したため。「さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」より	平成26年版～(H25年度実績)
※14	4-2	水循環の保全	公共下水道普及率	129	目標値:90%(平成24年度)	目標値:92.7%(平成29年度)	平成26年4月に「さいたま市下水道事業実施計画(計画期間:平成26～29年度)」を策定し、平成29年度末までの整備目標を下水道普及率92.7%としたため。	平成26年版～(H25年度実績)
※15	4-5	化学物質対策の推進	環境コミュニケーションの実施回数	147	目標値:10(平成25年度)	目標値:12(平成26年度)	年2回開催の目標のため、平成26年度の目標値は累計12回となるため。	平成27年版～(H26年度実績)
※16	5-1	一般廃棄物対策の推進	市民一人一日あたりのごみ総排出量	148	目標値:780g(平成29年度)	目標値:897g(平成28年度)	「第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」において同指標を目標値から除外したことにより、見直しを行った。	平成24年版～(H23年度実績)
※18	5-1	一般廃棄物対策の推進	一般廃棄物再生利用率	156	目標値:34%(平成29年度)	目標値:25.8%(平成28年度)	「第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標値の見直しを行った。	平成27年版～(H26年度実績)
※18	5-1	一般廃棄物対策の推進	一般廃棄物最終処分比率	159	目標値:6%(平成29年度)	目標値:6%(平成28年度)	「第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標値の見直しを行った。	平成24年版～(H23年度実績)

2 市民アンケート結果

本市では、「さいたま市環境基本計画（改訂版）」の基本目標の実現状況について、指標及び数値目標による定量的評価と市民の意識調査による定性的評価を行うこととしています。そこで市民の環境施策に対する評価や関心の状況等を調査するため、平成23年から毎年、環境に関するWEBアンケートを市民1,000人を対象に実施しています。以下は、アンケート結果の経年変化を示したものです。なお、平成27年のアンケート対象者の属性（居住区、性別、年齢）の分布は、前年とほぼ同様でした。

また、Q1とQ3については、回答割合を「順調である・とても関心がある」＝5点、「まあまあ順調である・やや関心がある」＝4点、「どちらとも言えない」＝3点、「あまり進んでいない・あまり関心がない」＝2点、「進んでいない・全く関心がない」＝1点として平均を求め、各項目の度合いを得点化し、Q1では「順調度」、Q3では「関心度」として算出しました。

Q1.基本目標1から5の進捗状況について、どうお考えですか。

平成27年は、平成26年に比べ、5つすべての目標について同等の結果となりました。

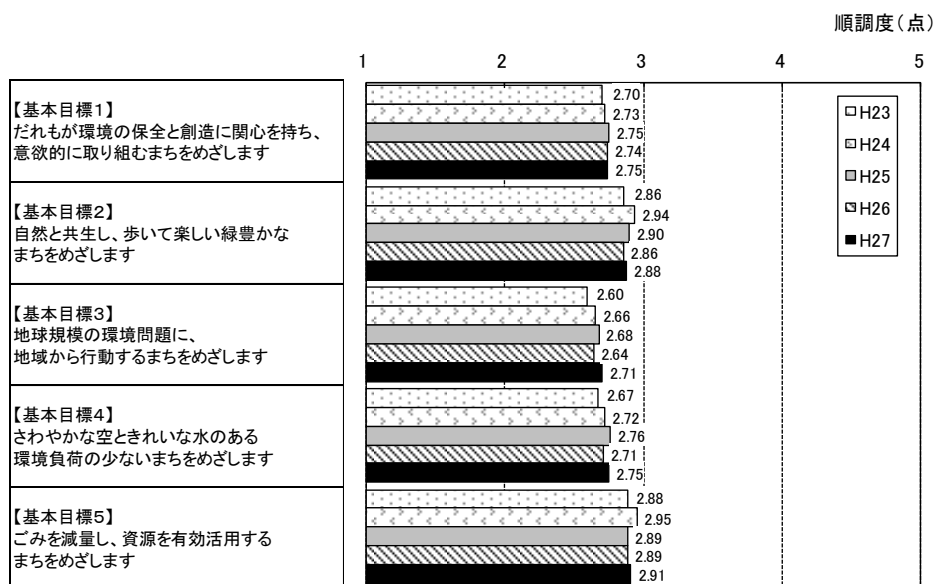


図 3-1 基本目標1から5の進捗状況についてのアンケート結果の経年変化

Q2. Q1の基本目標の進捗状況を踏まえ、さいたま市がめざす「望ましい環境像」の実現に、順調に近づいていると思いますか。

平成27年は、平成26年に比べ、「順調である」と「まあまあ順調である」の合計が0.6%増加し、「あまり近づいていない」と「近づいていない」の合計が3.3%減少しました。

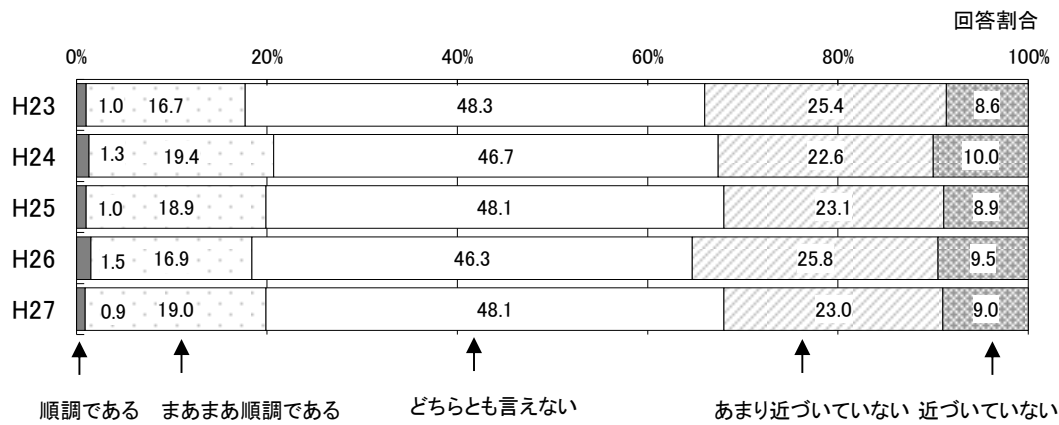


図 3-2 「望ましい環境像」の実現に近づいているかについてのアンケート結果の経年変化

Q3. 基本目標は、いくつかの施策を柱に展開しています。それぞれの施策への関心度について、
 どうお考えですか。

平成 27 年は、平成 26 年に比べ、全ての施策において同等の結果となりました。

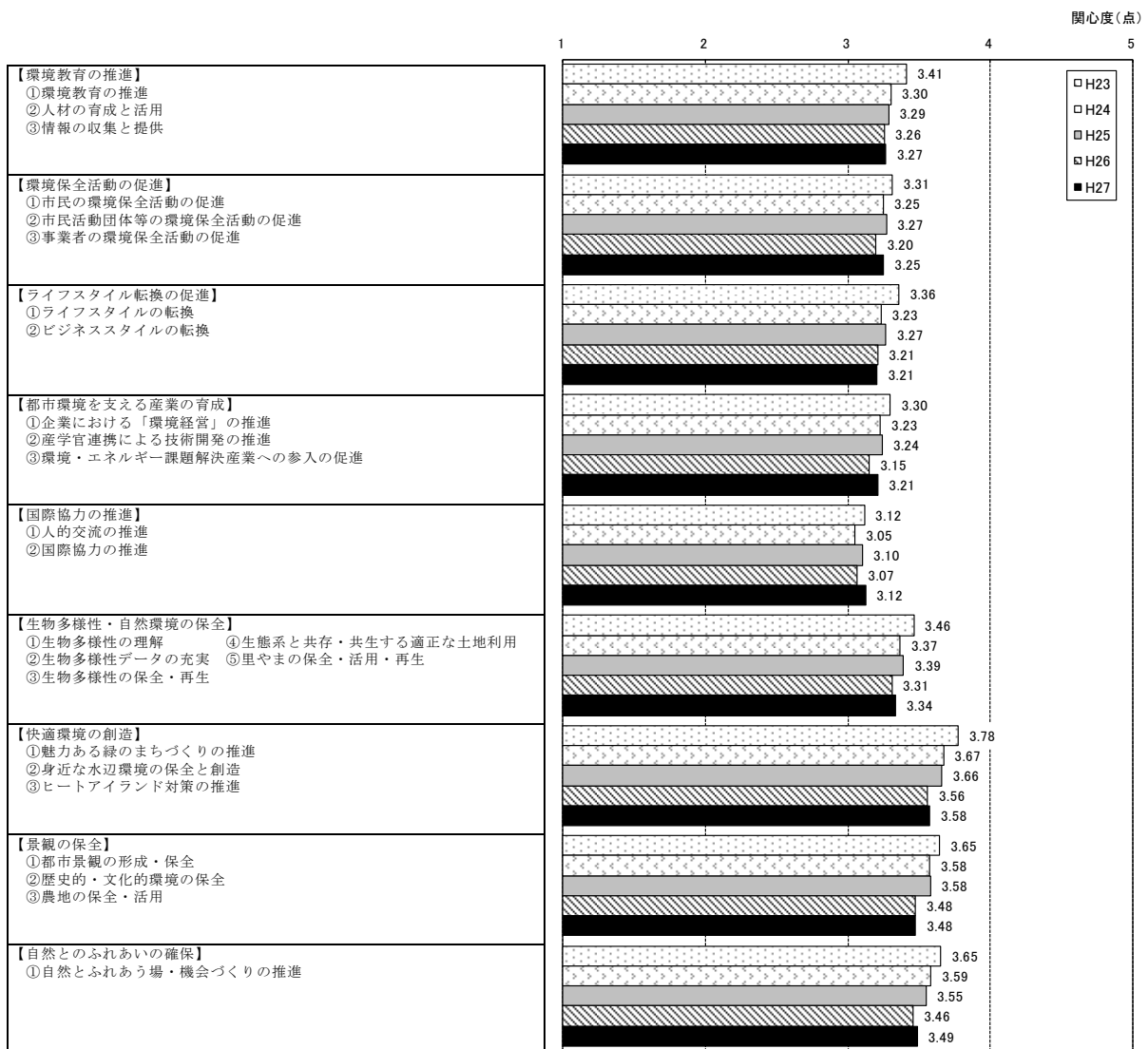


図 3-3 それぞれの施策への関心度についてのアンケート結果の経年変化(その1)

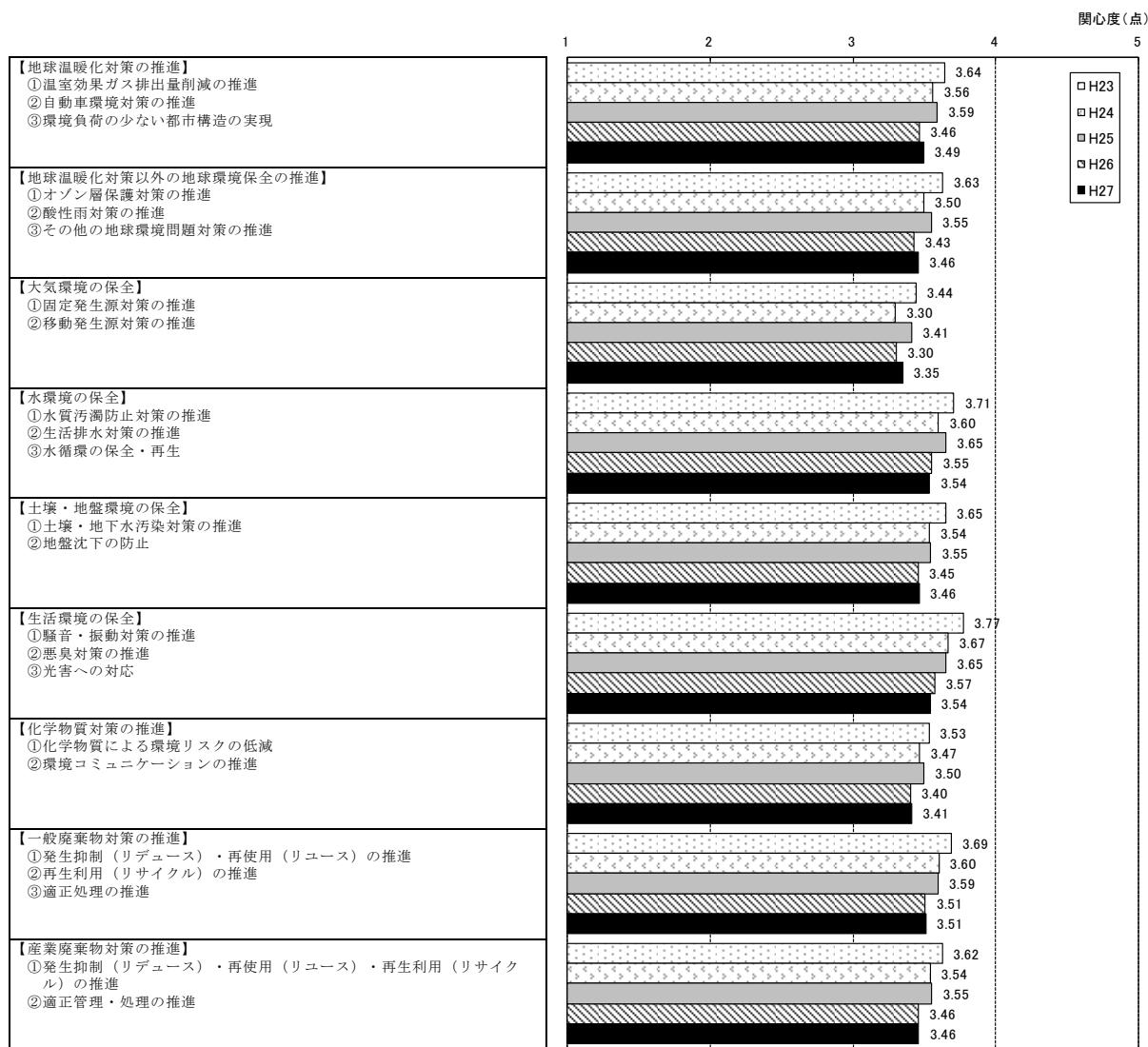


図 3-4 それぞれの施策への関心度についてのアンケート結果の経年変化(その2)

Q4. 「生物多様性」という言葉の意味を知っていますか。

平成 27 年は、平成 26 年に比べ、「言葉の意味を知っている」が 3.5%増加し、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 2.7%、「聞いたこともない」が 0.8%減少する結果となりました。

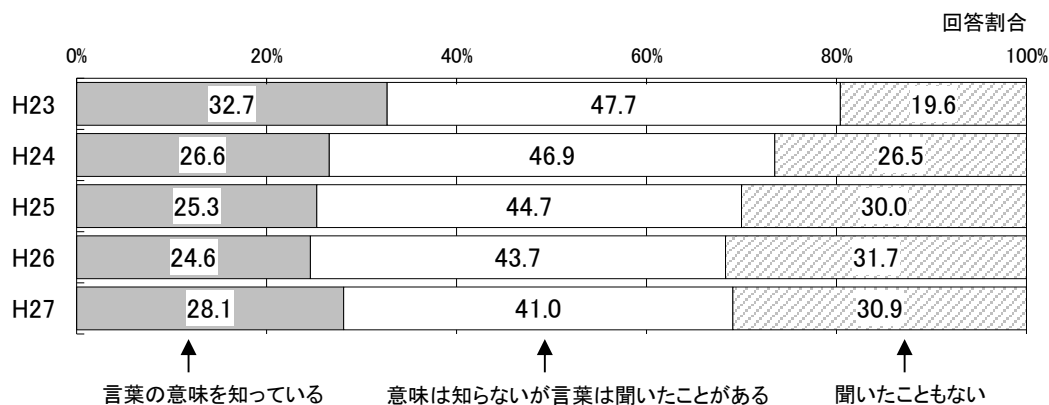


図 3-5 「生物多様性」の言葉の認知度についてのアンケート結果の経年変化

第2章 総合評価及び今後の取組

基本目標1 「だれもが環境の保全と創造に関心を持ち、意欲的に取り組むまちをめざします」の評価結果

基本目標1に含まれる指標12個のうち、9個が前年度より向上し、7個が年度目標値を達成しました。また、市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

こどもエコクラブ登録団体数、同会員数については前年度に比べて増加したものの、年度目標値との差が大きくなっています。こどもエコクラブ事業については、市や学校の刊行物を利用したり、イベントその他のあらゆる機会をとらえて紹介を行うとともに、各学校等への働きかけや普及・啓発をより一層進める必要があります。

環境教育拠点施設数やエコライフDAY参加者数、産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績は、目標達成に向け概ね順調に推移しています。

こどもエコクラブ登録団体数、同会員数については、前年度に比べて増加したものの、年度目標値との差が大きくなっています。各学校への広報活動をより積極的に行っていくとともに、放課後児童クラブ等の今まで周知していない団体への働きかけも検討する必要があります。

本市では、平成27年度から「さいたまこどもエコ検定」の実施や、「ごみスクール」の対象拡大など、環境教育の新たな取組や事業の拡大を行っています。今後これらを推進していくとともに、イベントなどでの啓発を通じ、より多くの方々に環境への関心を持ってもらう機会を提供していきます。

表3-7 指標による評価結果(基本目標1)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	9	2	1
対年度目標値比	7	3	2

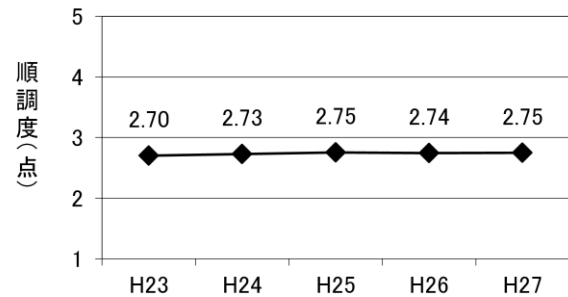


図3-6 市民アンケートによる評価結果(基本目標1)

基本目標2 「自然と共生し、歩いて楽しい緑豊かなまちをめざします」の評価結果

基本目標2に含まれる指標10個のうち、5個が前年度より向上し、4個が年度目標値を達成しました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

景観重要建造物・景観重要樹木の指定や学校教育ファームの実施校数は順調に推移しています。

生物多様性の認知状況（言葉の認知度）は、前年度から変化がないため、ホームページやイベントでの情報発信により、内容を分かりやすく示し生物多様性を自分の問題として関心を持ち、理解するための機会づくりを行っていく必要があります。

憩える場所の整備延長（高沼用水路）、オープン型緑地の指定面積は、年度目標値との差が大きくなっています。憩える場所の整備延長（高沼用水路）については、地元住民との協議を密に行い、速やかな事業の進捗に努め、オープン型緑地の指定面積については、土地所有者の協力を得ながら指定緑地の拡大を図ります。

また、公園・街路樹の整備や建物の緑化等の取組を推進し、緑地の減少抑制や自然とふれあえる場の保全・創造を進めていきます。

表3-8 指標による評価結果(基本目標2)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	5	5	0
対年度目標値比	4	4	2

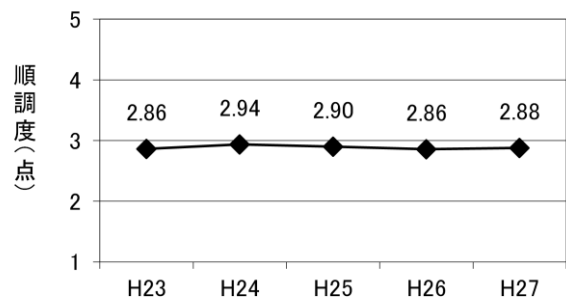


図3-7 市民アンケートによる評価結果(基本目標2)

基本目標3 「地球規模の環境問題に、地域から行動するまちをめざします」の評価結果

基本目標3に含まれる指標5個のうち、前年度より向上している指標、年度目標値を達成した指標はともに2個となりました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

温室効果ガス一人あたりの排出量と、温室効果ガス総排出量が目標年度値との差が大きくなっていますが、これは東日本大震災以降、原子力発電から火力発電へと電源構成がシフトしたことにより電力の二酸化炭素排出係数が大幅に高くなったことが要因の一つにあげられます。

本市における温室効果ガス排出量は、そのほとんどを二酸化炭素が占めおり、部門別二酸化炭素排出量の割合をみると、民生家庭部門が29.0%と一番大きい割合を占めています。一人あたりのエネルギー消費量が基準年度よりもわずかに減少していることから、省エネルギー化の取組の効果が表れつつあると考えられますが、市民一人ひとりが日常生活の中で環境に配慮した取組を行えるよう、引き続き意識啓発や情報提供を進めていくことが重要です。

また、温室効果ガスの削減には省エネルギー化技術の導入も必要であり、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの利用拡大やE-KIZUNA Project（イー・キズナプロジェクト）による電気自動車（EV）普及のための各種施策を進めていきます。

地球温暖化対策以外では、自動車解体業事業者に対してオゾン層破壊の原因となるカーエアコンのフロン類の回収処理指導を行っています。酸性雨については、平成2年度からモニタリングを実施しています。地球環境の保全のため、引き続きこれらの対策を推進していく必要があります。

表 3-9 指標による評価結果（基本目標3）

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	2	2	0
対年度目標値比	2	3	0

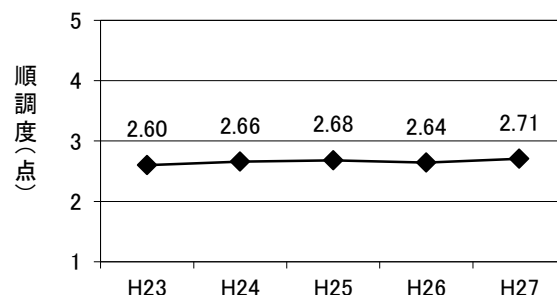


図 3-8 市民アンケートによる評価結果（基本目標3）

基本目標4 「さわやかな空ときれいな水のある環境負荷の少ないまちをめざします」の評価結果

基本目標4に含まれる指標16個のうち、大部分の15個が前年度より向上するとともに、年度目標値を達成しました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

基本目標4に含まれる項目は目標達成に向けて順調に推移しているといえますが、道路交通騒音に係る環境基準達成率が目標年度値を達成できませんでした。開発等により道路環境や交通量は年々変化するため、定期的に自動車騒音の状況を把握するとともに、自動車騒音の予防に向けて、道路の適正な維持管理や道路構造の見直し、低騒音舗装や防音壁等の整備を推進する必要があります。

微小粒子状物質（PM2.5）については、前年度は全ての測定局で環境基準を超過していましたが、平成26年度は2局で環境基準を達成することができました。今後は国、県等の関係機関と情報共有をするとともに、原因物質の排出状況の把握や効果的な対策を検討を行うため、成分分析を実施していきます。

水道使用量は毎年減少しており、節水型社会の形成が進んでいるものと考えられます。また、水質に関しては、水質汚濁に係る環境基準達成率が前年度よりも高い達成率で年度目標値を達成しています。

今後も、雨水等の有効利用の促進や意識啓発のための講座開催、公共施設への雨水貯留タンクの設置などを進めるとともに、公共下水道未整備地区の工場・事業者への監視や指導、公共下水道の早期整備、合併処理浄化槽の普及促進などに取り組み、水環境の保全に努めます。

表 3-10 指標による評価結果(基本目標 4)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	15	1	0
対年度目標値比	15	1	0

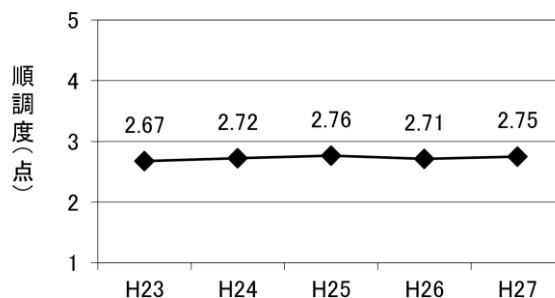


図 3-9 市民アンケートによる評価結果(基本目標 4)

基本目標 5 「ごみを減量し、資源を有効活用するまちをめざします」の評価結果

基本目標 5 に含まれる指標 5 個のうち、4 個が前年度より向上し、1 個が年度目標値を達成しました。年度目標値との差が大きくなっている指標はありませんでした。市民アンケート(以下、原文のまま)

ごみの総排出量は、平成 23 年度から減少傾向にあります。事業系ごみが増加傾向にあります。広報や出前講座、施設見学などを通して市民へごみ減量の啓発を続けていくとともに、事業系ごみの減量施策について検討していく必要があります。

一般廃棄物の再生利用率、最終処分比率は、ともに前年度に比べ向上しており、最終処分率は年度目標値も達成しています。再生利用率については、平成 27 年度から桜環境センターが稼動したことにより、熔融スラグなどの有効活用量が増加することが期待できますが、ごみの分別徹底や団体資源回収運動などをさらに推進していく必要があります。また、最終処分比率については、今後 15 年程度は市内の最終処分場に埋め立てすることが可能と考えられますが、現存施設を長期間使用できるよう、引き続き焼却灰をセメントとして有効利用するなど埋め立て量の抑制を図る必要があります。

産業廃棄物の排出量は、前回の調査時より増加してしまいました。産業廃棄物の最終処分量については、前回の調査時より減少していますが、目標年度値を達成できていません。事業場・建設現場における再資源化の取組状況の確認や指導、排出事業者に対する講習会、市民を対象とした施設見学会などを通して、産業廃棄物の適正処理と 3R について普及・啓発を進めていく必要があります。

表 3-11 指標による評価結果(基本目標 5)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	4	0	1
対年度目標値比	1	4	0

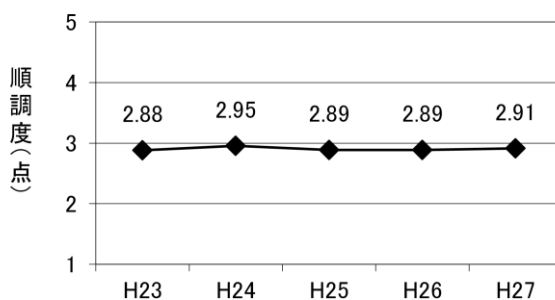


図 3-10 市民アンケートによる評価結果(基本目標 5)